

# 泡盛共同出荷で特別賞

## 5カ月でCO<sub>2</sub>7ト削減

県酒造組合（玉那覇美佐子会長）とダイワコーポレーション（東京、曽根和光社長）が今年2月に始めた「泡盛の県外への出荷物流の共同化」の取り組みが、国土交通省が主催するグリーン物流パートナーシップ会議の特別賞を受賞した。県内からは初めての受賞。物流効率化によるコスト低減で中小酒造所の県外展開を後押しする狙いの事業だが、4～8月の実績で二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を6・6ト削減したという環境面の効果が評価された。

### 環境効果で評価

玉那覇会長とダイワコーポレーションの若林敏男経営本部顧問が26日、県庁で屋比久盛敏商工労働部長に受賞を報告した。

共同出荷は、各酒造所が単独で東京へ出荷・販売している泡盛について、商品を集約してコンテナに混載し、船舶輸送や物流センターでの在庫管理を共同利用することで物流業務の効率を高める。県が物流高度化



グリーン物流パートナーシップ会議特別賞受賞を報告する（右から）ダイワコーポレーション経営本部の若林敏男顧問と県酒造組合の玉那覇美佐子会長、佐久本稔主事＝26日、県庁

モデル構築事業として支援し、3年間で県外出荷コストの約2割削減を掲げている。

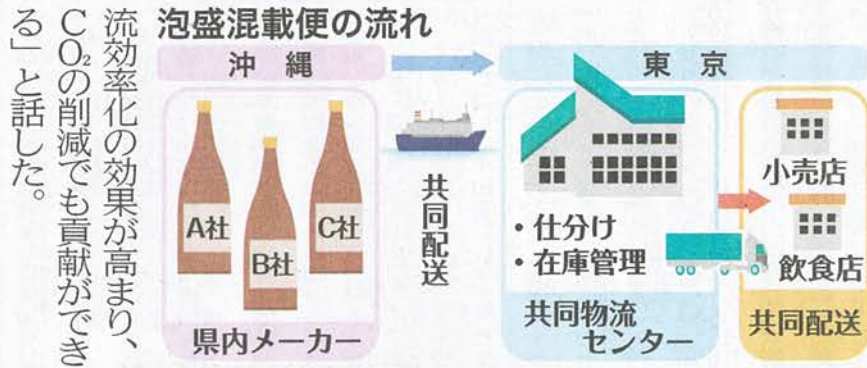
環境面でも4月から4カ

月間のCO<sub>2</sub>削減量の実績値として、海上輸送、東京港から倉庫までの輸送、関東地域の主要納品先への輸送一という各段階の合計が6・6トになると算出。事業をコーディネートしてきた若林顧問は「月を追うごと

に取扱量が増加していることから、16年度としては年30ト程度まで削減効果が拡大すると見込まれる」と説明した。

共同出荷には9社が参加の意向を示し、これまでに6社が共同での出荷を行った。玉那覇会長は「離島県ゆえに、首都圏までの距離が泡盛の県外展開の課題になっている。共同出荷による取扱量が増えるほどに物

### 泡盛混載便の流れ



流効率化の効果が高まり、CO<sub>2</sub>の削減でも貢献ができる」と話した。